

HO YOG

教区新報

次世代への礎 本願寺神戸別院修復工事の進行状況

「本願寺神戸別院・兵庫教区教務所・兵庫教区教化センター改修工事建設委員会」により、神戸別院修復工事の具体的な内容が計画され、今年1月20日付でご門主様の御認証をいただき、いよいよ令和の大修復工事を進めていくこととなりました。

2月7日には入札参加業者が決定し、設計管理業者立ち会いのもと、2月19日には現場説明会が開かれました。

3月14日には入札会が行われます。入札会では、別院責任役員及び総代会も同時に開催され、工事施工業者が決定する見込みです。

今回の修復工事は、外壁改修工事、屋上改修工事、一階土間改修工事、地階漏水改修工事などを含み計画で、令和7年度末の完成を目指しています。

これまでの修繕・改修事業には空調設備の改修、給水加圧ポンプの更新、映像出力デジタル化工事や照明器具のLED化、トイレの洋式化があり、今回の工事はさらなる安全性の確保と利便性の向上を目的としています。

入札成立後は3月末に工事請負契約を締結し、4月中の工事着工を目指します。工事期間は約10か月を見込んでおり、令和8年2月中には管理者及び建築主検査を実施し、2月末または3月中の引き渡しを計画しています。

また、本年3月中には教区内各ご寺院へ趣意書をお送りし、その後、寺院・門信徒の皆様を対象とした説明会を実施する予定です。ご懇志のご依頼はその後、教区賦課金の告知書送付（5月～6月頃）に合わせてお願いする予定です。

発行所 浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号（本願寺神戸別院内）
電話 神戸(078)341-5949(代)
[編集] 兵庫教区広報部

2025. 3 222号



兵庫教区教務所
ホームページ



兵庫教区教務所
facebook



現場説明会の様子

本願寺神戸別院が、今後も浄土真宗のみ教えを広める中心道場としての使命を果たすため、皆様のご支援とご協力を仰ぎながら、工事の進捗を随時お伝えしていく予定です。

先日ふらりと立ち寄った書店に鬼の特集コーナーがあり、興味深く拝見しました。鬼と聞くとツノの生えた怖い顔をした姿を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか？実は、もともと鬼の姿は決まっていなかったのだとか。見えない悪いものを鬼と呼び、色々なお話を通じて徐々に今の姿になっていったそうです。◆日本人の神仏に対する観念や死生観などについて考える時鬼は避けては通れない存在となつていきます。疫病や人間の内部に潜む邪悪な感情などが鬼と化す。鬼は悪の象徴であり、非人間的であり、反社会的、反道徳的で人間とは真逆な存在。しかし、鬼の背後には人間の持つ醜さや弱さが見え隠れしているのではないのでしょうか？◆言うなれば鬼は人間の写し鏡。それに気付けない私たちのために、鬼は日常のあらゆる場面に登場し反面教師としてそこに存在し、煩惱にまみれた私たちに警鐘を鳴らしてくれているのかもしれない。鬼の振り見て我が振り直せとでもいったところでしょうか。



先日ふらりと立ち寄った書店に鬼の特集コーナーがあり、興味深く拝見しました。鬼と聞くとツノの生えた怖い顔をした姿を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか？

宗会議員総選挙



豊原 正尚 氏



池本 史朗 氏



福本 康之 氏



北本 誠 氏

宗会議員任期満了(僧侶議員12月10日、門徒議員同月13日満了)に伴う宗会議員総選挙(僧侶同月11日、門徒同月14日選挙日)が全選挙区(全教区)にて実施された。

今回、現職の鹿多証道氏が立候補せず、新人1名・現職2名が立候補し、定数3名で投票が行われず、豊原氏、池本氏、福本氏の3名が当選人となった。門徒宗会議員は候補者2名(現職と本林宗興氏)定数1で選挙となり、同月14日開催の投票の結果、北本氏が当選人に決定した。

【僧侶議員】
◆豊原 正尚
(阪神西組西福寺住職)
◆池本 史朗
(姫路中組法性寺住職)
◆福本 康之
(阪神東組福円寺住職)

【門徒議員】
◆北本 誠
(北摂組元焰寺門徒)

真宗とゆかりある比叡山のお堂

親鸞聖人はかつて20年間、比叡山で修学されていました。その比叡山には数多くのお堂がありますが、本連載では、特に浄土真宗とゆかりがあるお堂をご紹介します。関わりを知ると、また違った視点からお参りできるかもしれませんよ。

大講堂

根本中堂の西側にある朱塗りの美しい大講堂は、伝教大師最澄が示寂してから間もない天長元年(八二四)に、初代天台座主・義真和尚が建立したのが始まりとされています。度々の火災で再建が繰り返され、寛永十九年(一六四二)に徳川第三代将軍・家光公によって再建された大講堂も、昭和三十一年(一九五六)に焼失してしまいました。

現在の建物は、寛永十一年(一六三四)に比叡山の麓にある日吉東照宮の本地仏を祀る讚仏堂として建てられたお堂を、昭和三十九年(一九六四)に移築したものです。本尊は大日如来が安置されており、その左右には比叡山で修行した各宗派の宗祖の木像が祀られています。

大講堂はその名が示す通り、僧侶の学問研鑽の根本道場として発展してきました。比叡山では四年に一度「法華大会(法華大会)法華大会」という「法華経」の教えをテーマとした重要な法会がおこなわれていますが、大講堂はまさにその道場となっています。

十講と、「広学堅義」という二つの論義法要により構成されています。法華十講とは、『法華経』八卷、開経「無量義経」一卷、結経「観普賢菩薩行法経」二卷を合わせた計十巻の経典を講師が講義し、問者が講師に『法華経』の教えを請う形で問答が繰り返される法会です。その歴史は古く、延暦十七年(七九八)に伝教大師が一乗止観院(現在の根本中堂)で初めておこなったとされています。

広学堅義とは、第十八代天台座主・慈恵大師良源によって始められた法会で、仏教各宗の教えを広く学べているか、また『法華経』の教えについて正しい義を立てることができているかが問われる、いわば天台宗僧侶にとつての堅義(試験)にあたります。

受験者である堅者は高座に上り、五人の問者から厳しい問いを受けてそれに答え進められます。この問答に対して、比叡山における法階(学階)の最高位で、論議の出题者である探題が精義をおこない、堅者の合否を判定します。そして広学堅義に合格した堅者には、帽子を身につけることが許可されます。

さて、大講堂の本尊左右に

安置されている名だたる各宗派の宗祖たちの中で、浄土真宗の親鸞聖人のみが首元に襟巻きをしています。実はこの襟巻きこそが広学堅義に合格した証である帽子なのです。

親鸞聖人の肖像には、ほとんど帽子を着用した姿が描かれており、聖人を象徴するものと言って良いでしょう。このお姿によって、親鸞聖人は比叡山で厳しい修行をされていた行者でありながら、広学堅義という難関の試験に合格した学僧でもあったことが分かります。

親鸞聖人の広汎な学識は、主著『教行信証』を読めば明らかであり、その学問的素養はすでに比叡山時代に培われたものだったのです。



相愛大学 非常勤講師 阪神西組 信行寺住職

四夷法頭

震災から30年 いのちの尊さ、後世に

1・17いのちを考える研修会を開催

1月17日「阪神・淡路大震災」の物故者総追悼法要が勤まり、多くの参加者が一堂に会して、亡き人々を偲んだ。

法要の後、宗門校の学生による「いのち」をテーマにした作文朗読が行われた。

朗読者は、一番合戦蓉子さん（神戸龍谷中学校）、網莉々佳さん（神戸国際中学校）、泉谷沙也さん（神戸龍谷高等学校）、川下瑠愛さん（兵庫



特別ゲストの浜村淳さん

濱村さんは「いのち明るく」というタイトルの講演を行い、ユーモアと深い洞察に満ちた話で会場を盛り上げた。参加者は、講演を通じて自らの「いのち」について新たな視点を得る貴重な機会を得た。震災から30年となる節目の日に、未来に向けて希望を持つための大切な行事となった。

近畿同朋運動推進協議会

70周年記念大会

「あらゆる差別・被差別からの解放をめざして」



皆で正信偈をお勤めした

近畿同朋運動推進協議会（近同推）の創立70周年記念大会が、2月3日、京都・間法会館で

門主様のご臨席のもと開催された。

テーマは「伝えよう同朋運動の願い」で、近畿各地より165人が参加した。まず、総物故者追悼法要が営まれた。

ご門主様は「言葉で、近年、国際社会においては対立と分断が深刻化し、日本社会においてもヘイトスピーチやヘイトクライム、またインターネット上における

差別情報の氾濫など、貧困や格差の広がりとともに、部落差別をはじめとして、あらゆる差別や偏見の深刻さが増しています。今なお続く差別の現実に対し、私たちはこれからも、浄土真宗のみ教えに基づいた同朋運動をより一層、また粘り強く展開していく必要があります」と述べられた。

続く式典では、近同推の竹内俊之会長が挨拶で、同和教育振興会などで関係諸団体と連携し、部

門主様は「伝えよう同朋運動の願い」で、近畿各地より165人が参加した。まず、総物故者追悼法要が営まれた。

ご門主様は「言葉で、近年、国際社会においては対立と分断が深刻化し、日本社会においてもヘイトスピーチやヘイトクライム、またインターネット上における

差別解消への決意を語る（竹内会長）



差別解消への決意を語る（竹内会長）

落差別をはじめとするあらゆる差別・被差別からの解放を目指して、宗門内外に啓発し、積極的に同朋運動を推進していく決意を新たにすることを呼びかけた。続いて、池田行信総長や部落解放同盟中央本部の赤井隆史書記長が祝辞を述べた。

記念講演では、羽衣国際大学教授でダイバーシティスピーカー（多様性の語り部）の、にしやんたさんが「ちがいを楽しみ、力にかえる」と題し、互いの人権を尊重するために各自の違いを受け入れ、共に生きる道を追求することが大切だと訴えた。

閉会式では、「親鸞聖人の御同朋御同行の願いに生きる同朋教団確立のために、諸先輩方の同朋運動に対する願いをこれからも伝え、同朋運動の灯を高く掲げてただ一つの道を歩き続ける」という大会宣言が読み上げられ、満場の拍手で採択された。

大会の後、会場を京都



70年の歩みに乾杯!

東急ホテルに移し、祝賀会が開催された。約130人が集まり、創立70年の節目を祝った。

祝賀会では竹内俊之会長の挨拶に続いて、来賓として北陸同朋運動推進協議会の嶋津弘隆さんが祝辞を述べ、同朋運動の重要性を再確認した。

また、中四国同朋運動推進協議会の坂原英見さん、九州・沖縄同朋運動推進協議会の加來宗曉さんがそれぞれスピーチを行い、参加者たちに激励の言葉を送った。

祝賀会は盛会のうちに行われ、近畿同朋運動推進協議会のさらなる発展を誓う場となった。

青春の力を集結！別院周辺の
クリーンキャンペーン(12月14日)



笑顔と共に、清掃活動！

「第2回子ども若者ご縁づくりクリーンキャンペーン」を開催し、須磨浦女子高校の皆さん18名と共に別院周辺のゴミ拾いを行った。北風が吹く寒さの中、ゴミの多さに戸惑う場面もあったが、商店街や道行く方から「ありがとう」と温かい声を掛けられ、活動の終わりにには、清々しい表情で「気持ちいい。良かった」と笑顔を見せる姿が印象的だった。若い力の頼もしさが嬉しく、有り難いご縁となった。今後とも縁づくりの行事を通して、若者たちに寄り添う熱い活動を続けていきたい。

笑顔溢れる！第30回震災支援
報恩講子どもの集い(12月21日)



キラキラ笑顔が溢れる瞬間！

少年連盟主催の「第30回震災支援報恩講子ども集い」が開催され、約170名が別院に集まった。式典では「正信偈」が本堂に響き渡り、昼食には、教化団体が用意したカレー等の食事が振舞われた。昼食後は、シヤボン玉おじさんによる「サイエンスバブルショー」や「モダン寺かくれんぼ」などのアクティビティが行われ、子どもたちの笑顔が溢れる素晴らしい一日となった。

全身体験！第2回まことの
保育連続研修会(1月11日)



楽しい体験が、保育の力に！

としひこさんをお招きし、曲に合わせた身体を使った楽曲体験を通じて保育活動の学びを学んだ。参加者はコロナ後の触れ合いの大切さを再確認し、有名な楽曲『にじ』や『さよならぼくたちのようちえん』も披露され、充実した研修会となった。

保育連盟による「第2回まことの保育連続研修会」が別院で開催され、95名が参加した。シンガーソングライターの新沢

兵庫教区での真宗の伝播と発展

毎月第2土曜の
モダン寺土曜講座

二〇二五年度
兵庫県と岡山県における真宗の歴史を深く掘り下げ、実際の寺院の様相や教えの広がり学びます。全7回の講演を通じて、兵庫教区の真宗の歴史をじっくりと学ぶ貴重な機会です。ぜひご参加ください！

講師 岡村 喜史 先生
(本願寺史料研究所 上級研究員)

時間 各回 13:30~15:30
場所 本願寺神戸別院
参加費 各回 1,000円

- 第1回 4月12日(土) 兵庫教区の寺院の諸相
 - 第2回 5月10日(土) 覚如上人と兵庫教区の寺々
 - 第3回 6月14日(土) 蓮如上人の有馬湯治
 - 第4回 7月12日(土) 蓮如上人と播磨
 - 第5回 10月11日(土) 英賀坊の創建と真宗のひろがり
 - 第6回 11月8日(土) 石山合戦と摂津・播磨
 - 第7回 12月13日(土) 江戸時代の真宗のひろがり
- ※2025年は 第2土曜に変更となります

お問い合わせ 078-341-5949 (神戸別院)
メール: hyogo@modan-t.or.jp



西暦 578 年創業 寺院建築

剛 金剛組

大阪本社 〒543-0051 大阪市天王寺区四天王寺 1-14-29 電話 06-6779-7731
 東京本店 〒104-0061 東京都中央区銀座 7-12-7 電話 03-6853-8190
 北海道支店・関東支店・名古屋支店・京都支店・九州支店・奈良営業所・広島営業所

お見積・資料請求などお気軽にお問い合わせ下さい ☎ 0120-054-731
<https://www.kongogumi.co.jp/>